

大学院生への研究指導・履修案内

田中 鮎夢

2025 年 7 月 29 日

1 入試

- 大学院での研究指導を希望する学生（入学予定者）は、合格後、[教務課](#)を通じて、もしくは直接教員にメール（ayumu@aoyamagakuin.jp）連絡してください。
- 貿易・外国直接投資・自然災害・芸術文化などの分野におけるミクロ実証分析（教員の専門分野）のみ指導可能です。専門外の研究テーマは指導できません。研究テーマが教員の専門分野に近いことが指導する上で決定的に重要です。
- 入試では、経済学検定試験（ERE）で A 以上を取得してください。持ち帰り試験（論題 1～4）では、実力を押し量ることができません。
- 研究計画において、10 年以内に公刊されたトップジャーナル（例：*American Economic Review*、*American Economic Journal: Applied Economics*、*American Economic Journal: Economic Policy*、*American Economic Journal: Microeconomics*、*Quarterly Journal of Economics*、*Review of Economics and Statistics*）や NBER Working Paper 等の英語論文を先行研究として参考にしてください。
 - 参考）[IDEAS: Aggregate Rankings for Economics Journals](#)
- 国際経済学分野の研究をしたい人は、上記に加えて、*Journal of International Economics* を参考にしてください。
- 修士課程の段階では、上記ジャーナルに掲載の論文の実証分析のマイナー・チェンジで十分です。たとえば、変数を増やす、対象とする国を中国から日本に変更する、など。
- 分析手法は、Difference-in-Differences (DiD) を歓迎します。Stock and Watson など学部レベルの教科書に記載のある単純な DiD で大丈夫です。理解できていない高度な手法を使わないでください。
- 日本のデータを用いる実証研究を歓迎します。教員の専門知識がないため、日本以外の国（例：中国）のデータを必要とする実証研究は避けて下さい。
- データは、無料で手に入るか、青学において無料で入手可能なものとしてください。例えば、以下のようなデータがあります。詳しくは、<https://ayumu-tanaka.github.io/teaching/Data.html> を参照。
 - Nikkei, NEEDS-FinancialQUEST → 青学学内から無料。日本の上場企業の財務データ。
 - World Bank Enterprise Surveys (WBES) → 無料。研究計画の登録必要。世界各国の企業へのアンケート調査。
 - The International Social Survey Programme (ISSP) → 無料。世界各国の市民対象のアンケート調査。
 - CEPII, BACI → かつては国連貿易統計の有料プラン加入が必要だったが、現在は無料のよう。国連貿易統計を研究用に加工済みの 2 国間の貿易データ。

- 財務省貿易統計 → 無料。日本の国別・財別の貿易データ。csv ファイル形式。
- IMF, Coordinated Direct Investment Survey (CDIS) → 無料。2 国間の外国直接投資データ。メールアドレス登録すると、一括ダウンロードできる。
- 観光庁、宿泊旅行統計調査 → 無料。

2 研究指導・履修案内

応用ミクロ経済学の実証研究には、経済学の知識に加えて、計量経済学の知識と R の操作技能が必要です。そのため、修士 1 年の履修/学習計画において、以下の点に留意してください。

1. 当該授業科目の担当教員の承認を得て、経済学専攻で開講されている以下の科目を修士 1 年のうちに履修すること。
 - 必須「統計学研究/演習 I/II」(前期、後期) 4 単位
 - 必須「計量経済学研究/演習 I/II」(前期、後期) 4 単位
 - 必須「データ解析研究/演習 I/II」(前期、後期) 4 単位
 - 推奨「国際経済学研究/演習 I」(前期) 2 単位

「他研究科・他専攻の授業科目については、当該授業科目の担当教員の承認があれば 10 単位以内に限り修了要件単位として認める」こととなっています(大学院要覧)。
2. 前期火曜 3 限「グローバル経済論演習」(2 年次配当科目のため単位は取得できない) に出席し、毎週、研究計画の相談を行うこと。修士 1 年後期以降も毎週指導教員の大学院講義に出席し、研究相談すること。
3. データの入手可能性・先行研究・研究デザインの検討を踏まえ、研究計画を変更して頂くことがあります。データの入手については 1 年次より相談・指導を行います。研究内容によっては、教員との共著論文作成に取り組めます。
4. 計量分析のため R を習得してください。Posit Cloud のアカウントを取得し、学部 2 年次ゼミ(後期火曜 2 限基礎演習) に出席し、R を習得してください。Stata は経済学分野では圧倒的なシェアで経済分析には便利ですので、博士後期課程に進学する場合は Stata も習得してください。
5. 修士論文は LaTeX (Overleaf) で作成します。Overleaf のアカウントを取得し、LaTeX の使い方を学んでおいてください。